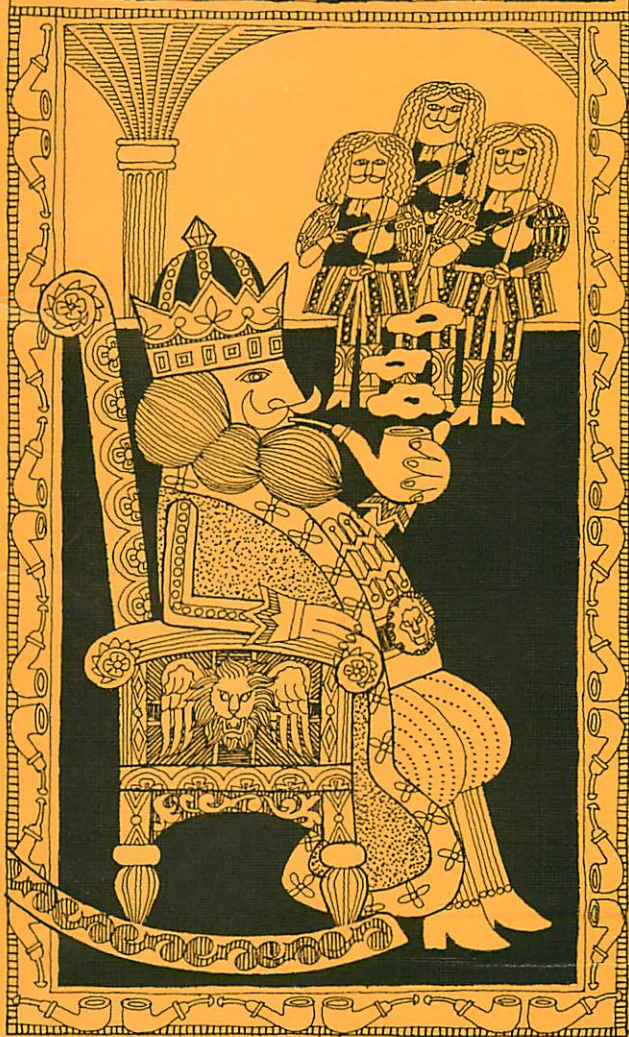


パイプタバコ

ポケット知識



楽しきかなパイプタバコ



最近、若い人たちの間にパイプたばこが流行しているといわれています。たばこといえば紙巻たばこや葉巻もありますが、楽しい喫煙ということになると、パイプたばこに一步をゆずるようです。

なぜなら紙巻たばこや葉巻は、きっちりと巻かれていて、そのまま火をつけて吸うだけしかできません。いってみれば「あてがいぶち」です。

ところがパイプたばこになると、刻まれたたばこの葉があるだけですから、いろいろと吸い方にくふうができます。たとえば、洋酒でカクテルを作ったり、コーヒーを好みに合わせてミックスするように、パイプたばこも何種類かを混ぜ合わせたり、さらに、ウィスキーやブランデーなどをふきかけて自分の好みに合ったかおりや味を楽しむことができます。また、材質や型の違ういろいろのパイプをそろえておき、その時の気分に応じて好きなパイプでくゆらすという楽しみもあります。

パイプの選び方



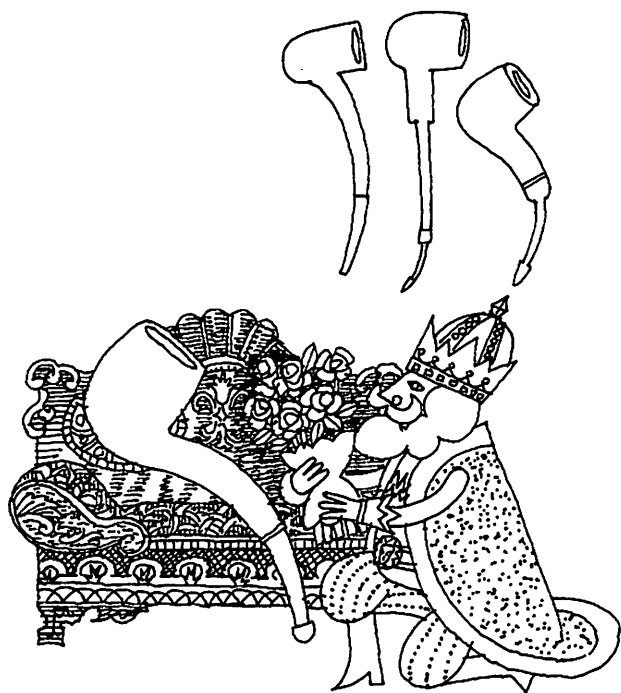
パイプの材料には、ブライヤー、メイシャム、クレー、チェリー、コーン、などがありますが、この中でブライヤーパイプは全体の95%を占めているといわれています。ブライヤーは地中海の沿岸地方に生育する白ヒースの木の根です。この根は「きず」や「虫喰いの穴」が非常に多く、無きづのものはごくわずかしかなできません。またパイプには樹令50～60年から100年位のものが使用されますが、中には200年以上のものもあり古いもの程高価となります。「きず」が無く、しかも木目の美しいもの(ストレイト・グレイン、パースアイなど)は何千本に1本といった割合でしかできませんのでこれも非常に高価なものとなります。普及品のパイプはこの「きず」を特殊な材料で穴埋めしてありますが使用上何のさしつかえありません。同じようなパイプでもこの「きず」の位置大小、多少によって価格も変わります。

自分の好みに合ったパイプを選ぶ時は次の点に留意しましょう。

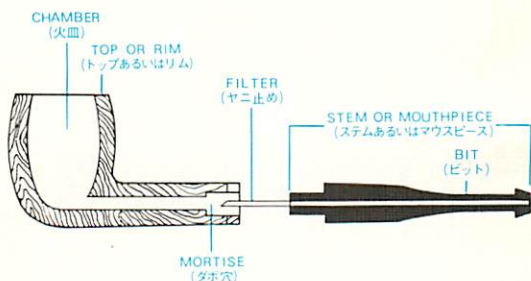
外国から輸入されるパイプには体の大きい外国人向けのパイプも含まれていますので、まず自分の体に合った大きさのパイプを選ぶ事がかんじんです。ボウルの大きさは自分の手の中に楽に握れる位のもので、肉厚の厚いも



のの方がよろしい。肉の厚いもの程ボウルが熱くなりません。特に初心者の人は火が消えないように強く吸いボウルを熱くしますので、ボウルの厚いパイプを選ぶべきです。又ボウル穴が深く細長いパイプは喫煙にかなりの技術を要しますから初心者の方は避けた方がよいでしょう。



パイプの大きさと、重さは密接な関連があります。重いパイプで喫煙していると、あごが疲れて唾液がパイプの煙道に流れこみ、たばこをぬらすことがあります。できるだけ歯にかかる低抗が少なく、楽にくわえていられるようなバランスの良いパイプを選ぶことが大切です。



長いパイプは短かいものに比べて歯にかかる重みが大きく疲れ易いし、又ハーフベントのパイプはストレートのものより軽く、ベントのパイプは更に軽く感じます。

パイプの吸い口は全んどがエボナイト製ですが、これも薄いと割れやすく、又厚いものはくわえにくく歯に負担がかかりますので、この点も考慮する必要があります。

同じような型のパイプの中から一本を選ぶ場合には、できるだけ木目のよい軽いもので全体的にバランスがとれていて、しかもボウルから吸い口までの線が美しいカーブをもった

パイプを選ぶことが肝要です。

新らしくパイプをお求めになる時は、使用する時期、場所、用途によって型も、大きさも異なってきますが次の点に注意して選びましょう。

1. 木目が均等で美しく緻密なもの。

2. 自分の体に合った大きさ、重さのもの。

イ. ボウルの大きさは自分の手のひらの中に楽に握れるぐらいのもの。

ロ. 初心者はボウルの肉の厚いものがよい。

ハ. 軽いもの程口に抵抗がかからなくて吸いやすい。

ストレートタイプよりもハーフベント、さらにベントの方がくわえた時、軽く感じます。

3. できるだけ口あたりの素直なものを選ぶこと。

吸い口のうすいものは割れやすく、厚いものは口がつかれます。

4. 自分の顔に似合うパイプを選ぶこと。

一般に丸顔の人はハーフベントか、カナディアンのような長くて先細のパイプ、細面でスマートな人は丸型のボウルのパイプが似合うといわれています。

パイプタバコの詰め方・火のつけ方



パイプタバコをはじめて吸う人は、たばこがうまく燃えないで苦労されるようです。固く詰めすぎると空気の通りを悪くし、柔らかすぎると表面だけ燃え、どちらもすぐ消えてしまいます。

たばこは3～4回に分けて押さえながら平らに詰めます、底の方を固めに上をやや柔らかくして弾力をもたせるくらいが適当です。

火はたばこの表面全部に十分につけます。

※2～3服してたばこが赤く燃え上ってききましたらコンパニオンで軽く押し、再び火をつけると、火持ちがずっとよくなります。たばこは強く吸わずに口中に広がる感じでゆっくり吸って下さい。そうすれば口があれることはありません。

※(火を付けるとボウルのふちを焦がさないように注意すること)

詰め方



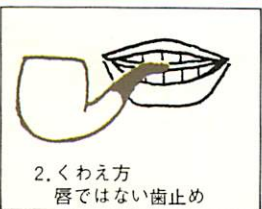
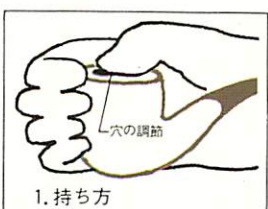
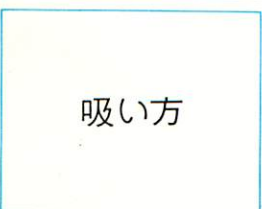
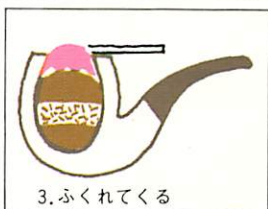
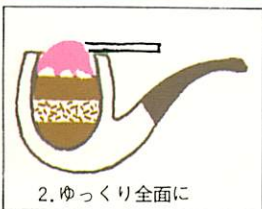
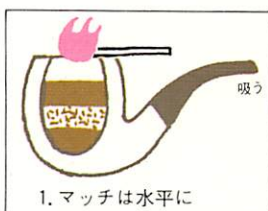
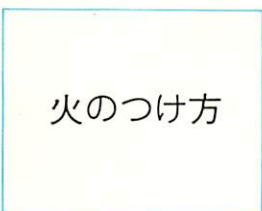
1. 底 $\frac{1}{4}$ 固くつめる



2. 中 $\frac{3}{4}$ 軟かくつめる



3. 上 $\frac{1}{4}$ やや固くつめる



パイプの扱い方



パイプは案外デリケートなものです。正しい扱い方、手入れの良し悪しがモノをいいます。

1. パイプの掃除は必ず、パイプが冷えてからすること、(熱いうちですと、とりはずした吸口がゆるくなったり、結合部分にヒビが入ったりします)。
2. 掃除は、できれば使用の都度すること、少なくとも1日に1回は必ずする(掃除には専用のモール状クリーナー、クリーナー液などがあります)。
3. ボウルに付着したカーボン層は2～3ミリが限度ですから厚くなったら、カーボンカ



ッターやカーボンナイフなどで平均 1 ミリ位に削ること。

4. パイプの外側は柔らかい布や皮でふいたり良質のワックスをかけたりして、じっくりと、そのツヤを楽しんでください。
5. パイプが熱いうちに再使用するのは、たばこの味が落ちますから避けてください。
6. 灰を出すために吸口をもって固いところへたたくと折れる場合がありますから注意してください。

〈新しいパイプのならし方〉

新らしいパイプのボウルの内壁にカーボンを付着させる過程をブレーク・インといいます。この期間は次の点に気をつけてください。

1. たばこはボウルの 4 分の 1 か、3 分の 1 ぐらいから始めて、順次、量を増やす。
2. ブレーク・イン中はボウルの内壁をこすったり、突いたりしない。
3. 火を十分につけて、ゆっくり吸うこと。吸い終わったら軽く手のひらでたたいて灰を落すか、コンパニオンで軽にかき出すこと。
4. カーボンがつきにくい場合は蜂蜜や砂糖をブランディか、ウィスキーで溶き、うすくボウルの内側に塗るとよい。

パイプのいろいろ



〈ブライヤーパイプ〉

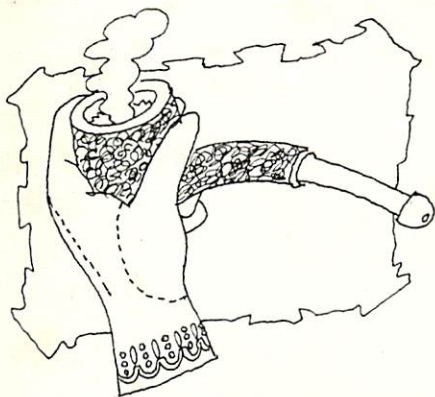
ブライヤーパイプの原料となる白ヒースの根は、きずや、虫食いの穴が非常に多く、このため、一般にブライヤーパイプの高級品といわれる、木目がボウルの表面に縦に揃っているストレート・グレインとか、同じくボウルの両面に渦巻き状の木目(パース・アイ)が一杯にあるようなパイプは極く稀にしかなく、又甚だしく高価なものとなります。無きずのパイプも同様です。

このため普及品のパイプには殆んど穴埋めがしてありますが、この小さな穴はボウルの中までは通っていないから喫煙には支障はありません。パイプを初めて買う人はこの普及品の中から、比較的木目が詰っていて歪みのないものでビリヤードのようなストレートタイプの標準的なパイプを選ぶと良いでしょう。



〈メヤシウムパイプ〉

メヤシウムパイプは日本では一般に海泡石と呼ばれ、地中海、カスピ海の沿岸やアフリカのタンザニアなどを主産地とした白色の鉱物で、これに琥珀、象牙、プラスチックなどの吸い口をつけたものですが、非常に割れやすく、又高価なもので屋内で静かに吸うパイプといえます。又一級品は純白です。



メヤシウムパイプには1個のブロックから削り出したものと、削り屑、粉等で再製したものがありますが、ブロックから削り出したメヤシウムパイプには必ずブロック・メヤシウム(Block・Meerschaum)の刻印がしてありますから、お買い求めの際に注意する必要があります。

メヤシウムパイプは、ブライヤーパイプ以上にデリケートなため手垢のつかないようにキ

ットか鹿皮の手袋をはめなくては吸っていけないといわれています。このパイプのならし方はいろいろな方法があるようですが、その一つとしてセーム皮をテープ状に切り、ボウルトップからていねいに巻いて使用し1ヶ月に一度位つつ色の変り具合をながめつつ、パイプがクリーム色からオレンジ色になるまでテープを取らないようにします。

またこのパイプは、ブライヤーパイプと異って最初から、ボウル一杯にたばこをつめて吸った方がムラがなく変色して良いようです。

ブライヤー・メヤシウム以外のパイプ

〈コーン・パイプ〉

アメリカの特産物、耐久性に欠けるが安価で気軽に吸える。

〈チェリー・パイプ〉

フランス産の野生の桜が原料

〈クレイ・パイプ〉

日本では一般に陶器製のパイプも一括して、クレイと称しているが、正しくは粘土製の素焼きパイプのことである。主生産国はイギリス、オランダ。

〈キャラバッシュ・パイプ〉

南アフリカ産の瓢箪の一種。



ズル



シャコムスペシャル



ローデシアンベント



ミリタリー



ブルドッグ



プリンス



ビリヤード



ベント



ロバット



ローデシャン

イギリスタイプとアメリカタイプ



現在のパイプたばこを大きく分類すると、イギリスタイプとアメリカタイプの二つの系統に分けられます。

イギリスタイプは、現在輸入されているものでは、ダンヒル・マイ・ミックスチュア・No. 965、バルカン・ソブラニイ・スモーキング・ミックスチュア、カプスタン・ネービーカット、フォー・スクエア、スリー・ビー、ボンド・ストリート、ジョン・コットン、クレーブ・ミックスチュアなどがあります。そのかおりと味は格調の高いコクのあるまろやかな風味で、チーズやハムを加えたポタージュスープの感じといったらいいでしょうか、わが国の飛鳥と桃山はこのタイプです。



アメリカタイプは、商品名としては、ハーフ・アンド・ハーフ、サー・ウォルター・ラーレー、プリンス・アルバート、エジュワース、ミックスチュア・No.79などです。そのかおりと味は香料のきいたソフトな風味で、こちらはコンソメスープといった感じです。はじめての方には、吸いやすさや火持ちの点で、どちらかというとなアメリカタイプからはじめられる人が多いようですが、なれるにつれてイギリスタイプへ移ったり、なかにはその時の雰囲気を使い分けする方もあります。

さて、両者の違いといえは、イギリス系にはバージニア葉を主体にラタキア、バーレー、ダークファイアード、ペリックなどの葉が配合され、アメリカ系にはバーレー葉を主体にバージニア、ダークファイアードなどの葉がブレンドされ、香料も多く使われています。そんなところからかおりも味も違っていますが、かんたんな見分け方は、黒い刻みが多く配合され、いぶしたような匂いがしたり、刻みがプレスされて、片状、粒状に固まったものがあるときは、だいたいイギリスタイプと見て間違いのないようです。

わが国のロックンチェアーは、このタイプです。

日本のパイプたばこ



飛鳥

存在が深まる
その時間……

「飛鳥」はラタキア葉（キプロス島産）のにおいと、米国産黄色種にオリエント葉、インド葉等数多くの原料が混合され、喫味にくさみがなく緩和で軽快なたばこです。燃焼は緩慢で良好であり、煙温は非常にクールで品質的には英国の高級ミックスチェアタイプに匹敵し、日本の代表的なパイプたばこです。





「桃山」は、国産黄色種と米国産のバージニア葉にインド葉や特殊な処理をしたペリック葉など、いろいろなタイプの原料葉が数多く配合されています。それぞれ持ち味を生かして、製品に美しい外観を与えるとともに、優雅な香喫味や、独特の芳香を保つように鮮黄色や焦茶色、異色に仕上げた葉をブレンドしてあります。特に黒い刻みは、特殊な加工を施した葉や特殊な処理をしたペリック葉で、パイプたばこ特有のスモーク様の芳香を持ち、燃烧性、火持ちをよくするために使われています。こうした原料は、葉の特質を生かすために別々に加香、熱処理をされ刻まれ、最後に一定の割合により混ぜ合わされ、かんにつめられて市場に送りだされるのです。

しっとりとした甘いかおりとこく、高級パイプたばこ「桃山」は本格派といえましょう。

桃山



日本のパイプたばこ



「ロックンチェア」の原料は、国内産のバーレ一種を主体に、在来種と緩和なインド葉を加えた高級パイプたばこです。くさみが少なく、燃焼も緩慢良好で、調和のとれた軽快な味のため喫みやすく、けむり自体も非常にクールです。どちらかといえばハーフ&ハーフに似たアメリカタイプのパイプたばこといえます。葉組は特殊加工をほどこし、ローストしたきざみを中心に、特別な加香を行ない、さらに第二加香として果実用の新しいタイプの香料を使用していますので、フワッとしたふくらみがあり、味は甘味をおびたまるみのある製品に仕上げてあります。

「ロックンチェア」は、外国製品にも劣らないわが国のパイプたばこの傑作です。

Rockin
Chair





★ 日本専売公社 ★